

看護の現場に新しい風を。

高校時代に 男性看護師に出会う。

広島から来静し、静岡リウマチ整形外科リハビリテーション病院に入職した沖皓介さん。整形外科看護師として患者と正面から向き合う。医師やスタッフと緊密に連携しながら、毎日忙しく働く病院内でインタビューしました。

看護職に就くきっかけ

高校生のころ、一度検査入院をしました。そのとき、男性看護師にすごくお世話になったのです。優しいのはもちろん、とても面白い方で。初めての入院が苦痛に感じられず、むしろ楽しめたと思います。

無事退院を見届けるやりがい

担当だった患者様が退院後自分を訪ねてくれて、感謝の言葉をいただきました。うれしいですよ。逆に一番つらかったのは、広島の病院時代に同世代の患者様が亡くなったことです。

経験を糧にスキルアップ

院内は明るくて、お互いが助け合う意識やチームワークを大切にしている。患者様が集まっています。患者様の年齢層に偏りはありませんが、スポーツ中のけがでの入院など若い方も多く、病棟は活気がありにぎやかですね。

男性看護師は年々増えていきます。しかし、厚生労働省が2015年7月に発表したところによると、就業看護師総数およそ109万人のうち男性看護師数はわずかに7万人に過ぎません。

体力がいる看護や力仕事、診断・治療・経過観察に活用されるME(Medical Engineering 医用工学) 機器の扱いで頼りにされるケースが多いですね。男性特有の目線で看護に関われる。看護の現場に「新しい風を吹き込めたいな」と思っています。

活躍シーンは確実に広がっ

ています。これからもリアルな経験を積み重ね、スキルアップしたい。尊敬する先輩たちのように、患者様からも同僚からも慕われる看護師になるのが夢です。

静岡の海が好き

広島から静岡にエターンした理由は3つあります。まず人柄が温和で優しい。気候が良く働きやすい環境。一番はきれいな海があるからです。時間が許す限り、釣りやダイビングへ。日頃の疲れがとれ、頭も体もすっきりします。

静岡リウマチ整形外科リハビリ病院
看護師 沖皓介さん(32歳)

広島生まれ。2008年 広島市の看護専門学校卒業後、市内の総合病院の看護師として入職。2015年静岡市へ。静岡リウマチ整形外科リハビリ病院の急性期看護師となる。



特集 静岡で輝く